

保育園サーベイランスの開発・運営開始から4年経過して

— 導入が目的ではなく、軌道に乗せることが重要 —

国立感染症研究所 感染症疫学センター 菅原民枝 大日康史

先月号で、保育所における感染症対策の予防体制、保護者に保育所内の感染まん延防止対策に協力してもらう体制作りについてお伝えしました。それぞれの保育所において、見直すことができましたでしょうか？職員も、保護者も保育園サーベイランスを活用して心構えを持つことによって感染症対策への対応がしやすくなる、ということを理解できましたでしょうか。

■ 保育園サーベイランスの開発・運営開始から4年経過して

「保育園サーベイランス」は2010年に開発され、夏に本格導入されました。2010年8月に厚生労働省保育課から発出された事務連絡を受けて、自治体が検討して導入が進みました。その際に、スタートアップ研修（操作研修）をパソコン室で行って開始できた自治体とスタートアップ研修ができなかったけれど開始された自治体がありました。

その後も多くの自治体で検討され、導入されました。導入のきっかけは様々です。保育所の先生からの導入希望で開始された自治体があります。一方で、保育所の先生からの導入希望があっても自治体で検討した結果見送られた自治体もあったと聞いています。また、学校の方で（学校欠席者情報収集システム）導入されたので（されるので）、それでは保育所も一斉に導入しましょう、と県単位で開始されたところもあります（茨城県、群馬県、奈良県、三重県）。

* 「学校欠席者情報収集システム」とは

「保育園サーベイランス」と同じようなシステムとして、学校に通学する児童・生徒が欠席した場合の「学校欠席者情報収集システム」があります。こちらは、2007年に開発され、2009年の新型インフルエンザの際に本格的に9県で導入され、活用されました。現在22県6政令指定都市（平成26年4月現在）で導入され稼働しています。経緯的には、こちらが先に開発、実用されました。この学校欠席者情報収集システムの保育園版が保育園サーベイランスです。そのことを明確にするために、学校と保育園の両方を含んだ総合的なシステムとして現在では、「学校欠席者情報収集システム(保育園サーベイランスを含む)」と表現しています。

保育園サーベイランスは、自治体での導入が望ましいのですが、先の通り自治体での導入が困難な場合もあり、1施設単位でも導入は可能となっております。しかし感染症対策は、1つの施設内も大切ですが、地域での取り組みが必要なことから、自治体での検討・導入が望ましいと思います。

さて、導入をした保育所、自治体はどうなっているのでしょうか？現状を分析したところ[2014年4月現在]、いくつかのパターンに分かれていることがわかりました。

- ① 個別の保育所で導入したものの、入力されておらず、継続されていない。
- ② 個別の保育所で導入し、入力継続している。
- ③ 自治体単位（市区町村）で導入したものの、スタートアップ研修をしなかった。導入当時の保育所を所管する担当者がある間は入力されていたが、異動となり、入力の促進が行われず、一部の保育所はしっかり入力をしているが、地域としての実態は継続していないことが多い。また保健所の関与もされていないことが多い。（入力率低調）
- ④ 自治体単位（市区町村）で導入し、スタートアップ研修を行い、保育所を所管する担当者の異動があっても引き継がれて入力率は安定している。フォローアップ研修までも行っている自治体は多い。しかし、公立のみでの開始で、地域全体を反映していないため、活用の面で不満があることがあり、モチベーションが下がることもある。（入力率良好、活用低調のところもある）
- ⑤ 自治体単位（市区町村）の公立・私立で一斉導入し、スタートアップ研修を行い、保育所を所管する担当者の異動があっても引き継がれて入力の促進が行われている。保健所の公衆衛生介入も行われている。フォローアップ研修までも行っている自治体は多い。しかし近隣自治体が導入していないこともあり、地域全体を反映していないため、活用の面で不満があることがあり、モチベーションが下がることもある。（入力率良好、活用低調のところもある）
- ⑥ 自治体単位（県）導入をしたが、市町村単位や施設単位での希望を取り入れたため、入力の促進が行われず、一部の保育所はしっかり入力をしているが、実態としては継続していないことが多い。（入力率低調）
- ⑦ 自治体単位（県）の公立・私立で一斉導入し、スタートアップ研修を行い、保育所を所管する担当者の異動があっても引き継がれて入力の促進が行われている。保健所の公衆衛生介入も行われている。フォローアップ研修までも県が主導で行っている。さらに、県独自の研修運営を企画している。地域全体を反映しているため、活用しやすい。（入力率良好、活用良好）

上記のパターンをみていただくとわかる通り、④や⑤のように自治体で導入された場合

のうち、スタートアップ研修をしっかりと行った自治体は、その後も安定した入力率が保たれています。しかし、地域全体が反映されていないと活用面で十分に満足できていないことがわかります。

県が主導した⑦の場合は、とても順調です。特に⑦のケースは、学校も同時に開始されていることも多く、その場合地域内の全施設が導入になっていることもあり、その後の感染症対策部局での活用も進み、早期探知、早期対応につながり、非常に安定した運営となっております。

学校にとっても、保育所にとっても、双方の情報は大変に有用ですので、どちらか一方というよりも、その両方を含む「学校欠席者情報収集システム(保育園サーベイランスを含む)」が利用、活用されることがより望ましいです。

■これから導入を検討する自治体に向けて

まずは、②のような保育所を応援したいと思います。1つの施設（あるいは少数）での取り組みで、地域全体を反映されるものではありませんが、しっかり取り組む姿勢があります。こうした施設は、ぜひ自治体の担当者に地域で取り組みたいと話をしてはいかがでしょうか。2010年の事務連絡が発出されてから数年経過しますので、保育所を所管する担当者の中には、知らない方もいるかもしれません。

保育所から導入を検討したいと言われた保育所を所管する担当者は、あるいは保健関係者、園医・小児科医の医師会関係者に勧められた場合もあると思います。そうした場合には、ぜひご検討ください。現在「保育園サーベイランス」導入のための自治体向け手引書（仮称）を作成しております。手引書は保育所を所管する担当者向けに、保育園サーベイランスの導入から開始までの過程や導入後の活用方法などをわかりやすく解説し、自治体単位での導入が円滑に進むように支援するためのものです。国立感染症研究所にお問い合わせください（お問い合わせ先：hoiku@nih.go.jp）

また、学校が対象の学校欠席者情報収集システムは、現在 22 県で導入されています。先の⑦のように、きょうだい関係での感染伝播の予防策として保育所でもはじめたい、県内全域で導入を検討したいという場合においても、上記までお問い合わせいただきたいと思います。

■導入決定から開始までの流れ

目安として下記に記しますが、具体的な内容は今後発刊される手引書をご参考ください。

- (1) 保育所を所管する担当者が中心となって、推進体制の構築・導入に至るまでの関係機関との連携をとります。

- (2) 保育所への事前説明とスケジュール組み立てをします。この時にも、国立感染症研究所にご一報ください。保育所の施設長の集まり等で説明会を行います。
- (3) スケジュールの調整と合わせて、具体的な準備として施設名称の一覧と中学校区の地図を国立感染症研究所にご送付いただきます。
- (4) スタートアップ研修を行います。

■導入が目的ではなく、軌道に乗せることが重要です

保育園サーベイランスは、保育所の感染症対策のためのシステムです。導入をすることが目的ではありません。そこで得られたデータを解析することによって情報にし、感染症対策をする人々へ情報を提供すること、そして早期探知、早期対応によって子どもを感染症から守ることが目的です。そのためには、システムそのものの入力目的なものではないです。ですので、入力率がおちてくると、得られる情報が限られるので、活用することができません。活用するためには、安定的な入力率を保つためだけでなく、軌道に乗せることが重要です。

軌道に乗せるためには、導入後1年をめぐり、フォローアップ研修をすることをお勧めしています。フォローアップ研修は、スタートアップ研修とは異なり入力の習熟が目的ではありません。むしろ、一年程度入力されてきた各保育所が、自施設あるいは地域のこの1年間の情報を活用する方法を習得することと対応の振り返りが目的です。つまり、システムの有効活用が目的で、いかに感染症対策に活用できるか、してきたかを確認するものです。主な内容は機能の説明と効果的な使い方になります。中にはスタートアップ研修での内容を一部誤解して入力されていた保育所があれば、フォローアップ研修の中で、例えばあるグラフが出ないことになり、誤った入力に自ら気づき、その修正ができます。フォローアップ研修は、稼働したシステムの安定的な運用に不可欠です。

導入が開始されると、毎日の入力が習慣化される保育所と滞る保育所があります。しかし、全ての保育所が習慣化されるように地域で取り組んでいきましょう。地域内の感染症流行状況がリアルタイムで把握されると、毎日が変わってきます。

今回作成している手引書には、保育園サーベイランスを、どのように活用したらよいかを知りたいという場合にも参考にできるように作成されております。導入はしているものの、担当者が代わって継続が困難な状況で入力率も低迷しているので、再度導入の意義等を確認したい場合や、導入はしているものの再度、活用の方法や導入後の研修について確認したい場合にも参考になります。